

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：五十嵐川の災害復旧事業における多自然川づくり 多様なバープエの設置事例		
水系/河川名：信濃川水系 五十嵐川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：301.1km ²	整備計画流量：1470m ³ /s(W=1/80)	セグメント：1
事業：災害復旧	事業開始年度 平成25年度	
目標設定：定性的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：瀬・淵の保全・再生・創出、水際域の保全・再生・創出		
工法(主な)：築堤、引堤、掘削(河床)、護岸整備		
配慮事項(主な)：多自然川づくりのアドバイザー制度の活用		

背景・課題、目標設定

<背景>

平成23年7月末の新潟・福島豪雨による堤防破堤等が発生し、大きな浸水被害が発生した。治水安全を確保するため、河道拡幅、護岸整備により、河床の起伏が減少し直線的な平瀬となり、みお筋が単調化した。

平常時のみお筋の単調化により、淵や早瀬が減少した。また増水時に魚類の避難場所がなくなり、魚類等の生息・生育環境が悪化した。漁業協同からも魚の避難場所が減少し、増水時に魚が流されている、魚の隠れる場所を作れないか等の意見が寄せられた。

<目標>

新潟・福島豪雨から清流五十嵐川の河川環境を再生させる。

河床地形や流れの多様性を創出するために試みられている河川工法のバープエを設置し、川の作用を利用して河床環境の改善を図る。バープエ先端部で局所洗掘が生じ、水深、流速の多様化、バープエ間に魚類等の生息・生育環境となる緩流域の形成、水際部の植生基盤となる寄り州の形成を行い、水際部を生息・生育、出水時の避難場所としての整備を図る。

取り組み内容・対策例

【バープエ設置箇所】 中上流域の河道延長約6km 9箇所設置



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<整備効果>

- ・バープエ上流側や周辺に砂州、ワンドが形成された。砂州に植生の生育が確認される。
- ・ワンド内は幼魚や稚魚等に利用されているほか、止水域、緩流域を好む魚類の生息・生育の場、洪水時の避難場所となっている。

<今後の対応>

- ・バープエ設置から2～3年程しか経過していない。バープエが壊される等、大きな出水後のバープエの経過観察が必要である。

平成25年12月10日
荒沢水位：59cm



平成28年8月9日
荒沢水位：70cm



備考